

自然災害への取り組み

北陸支部

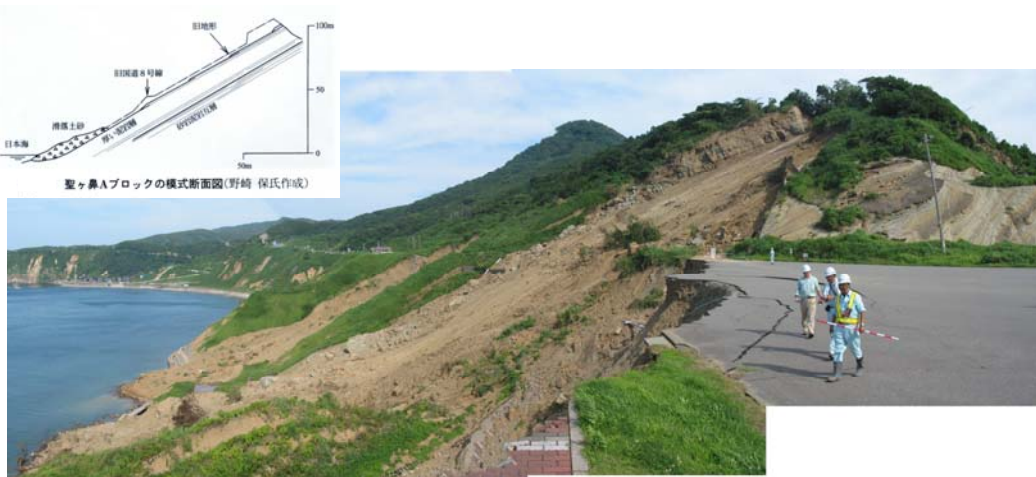
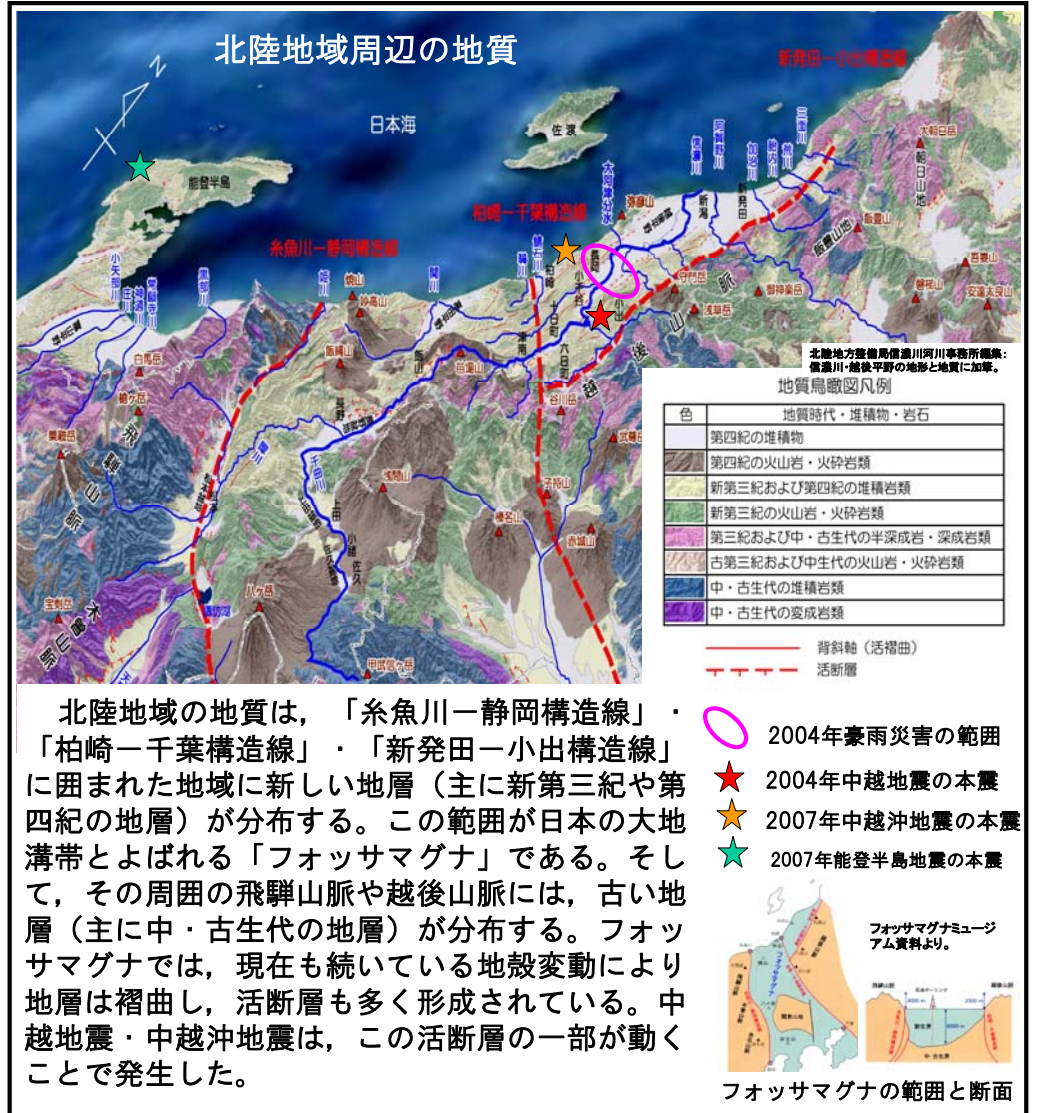


支部活動の歴史

北陸支部は、2002年に設立し、新潟県を中心とした会員により活動を行っています。今年で7年目になる若い支部ですが、毎年、「講演会」・「現地研修会」・「研究発表会」をベースに、応用地質に関わる事業を企画し活動しています。下記の活動トピックに記載したように、2004～2007年の3カ年に豪雨災害や地震災害が集中し、災害復旧・復興に関わる会員活動や支部活動が多い時期であったといえます。北陸支部では、現在、これらの蓄積されたデータを整理し、「中越地震で発生した地すべり記録集」を作成中です。

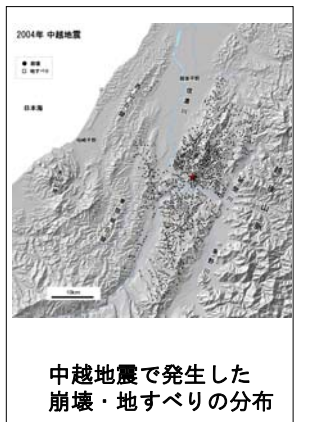
各年の活動トピック

- ・2002年 3月に北陸支部設立。
- ・2003年 シンポジウム「新潟平野のおいたち」開催。「角田山・弥彦山周辺の地形地質の見方」の研修会開催。
- ・2004年 7月13日豪雨災害発生、10月23日の中越地震発生 本部合同調査団により緊急調査。中越地震発生直後の交通事情の悪化中、学会員の熱意により新潟市で全国大会を開催することができた。
- ・2005年 2004年の災害発生地盤の研究を進める基礎として、西山丘陵周辺を対象に「新第三系～第四系の地層観察法」の研修会開催。
- ・2006年 中越地震をメインとした研究発表会開催。
- ・2007年 3月25日能登半島地震発生、7月16日の中越沖地震発生 本部合同調査団により緊急調査。
- ・2008年 中越沖地震による「椎谷岬初生地すべりの観察」の研修会開催。



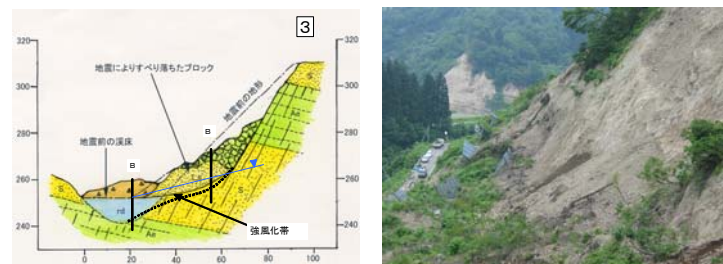
災害復旧・復興への貢献

豪雨災害・地震災害により、新潟県の中越地方では、崩壊や地すべりが多発しました。とくに、中越地震は中山間地を襲った直下型の地震で、多大な土砂災害を引き起こしました。また、従来、地すべり地は地震時に再滑動しにくいものと考えられていましたが、中越地震では多くの地すべり地が再滑動しました。会員や会員所属の機関・会社は、一日も早く復旧・復興が進むように、応用地質学の知識と経験を生かし、調査・解析・設計の業務に従事しました。



事例箇所3

節理と砂岩強風化帯の組み合わせで発生した崩壊型地すべり



2004年中越地震で発生した地すべりの一例。
北陸支部の研究発表会講演集より。